

大都市近郊に今も息づく 武蔵野の落ち葉堆肥農法



武蔵野地域は埼玉県南部
首都東京から30km圏内の大都市近郊
川越市・所沢市ふじみ野市・三芳町の3市
1町からなる地域です。

武蔵野の落ち葉堆肥農法



世界農業遺産
令和5年7月認定
日本農業遺産
平成29年3月認定

埼玉県武蔵野地域

「武蔵野の落ち葉堆肥農法」は、江戸の食料需給に応えるための1600年代の江戸時代の本地域の開拓に遡ります。開拓時、栄養分が少なく、水に乏しいなど農業を行うには非常に厳しい自然条件の本地域において、「屋敷地・畑地・平地林」を計画的に配置し、その平地林の落ち葉を堆肥化し、畑地にすき込み土壌改良を行うことによって、生産性が高い畑地を生みだし、安定的な農産物の栽培を可能にしたのが「武蔵野の落ち葉堆肥農法」です。



多福寺

開拓農民の心の拠り所である
菩提寺の多福寺



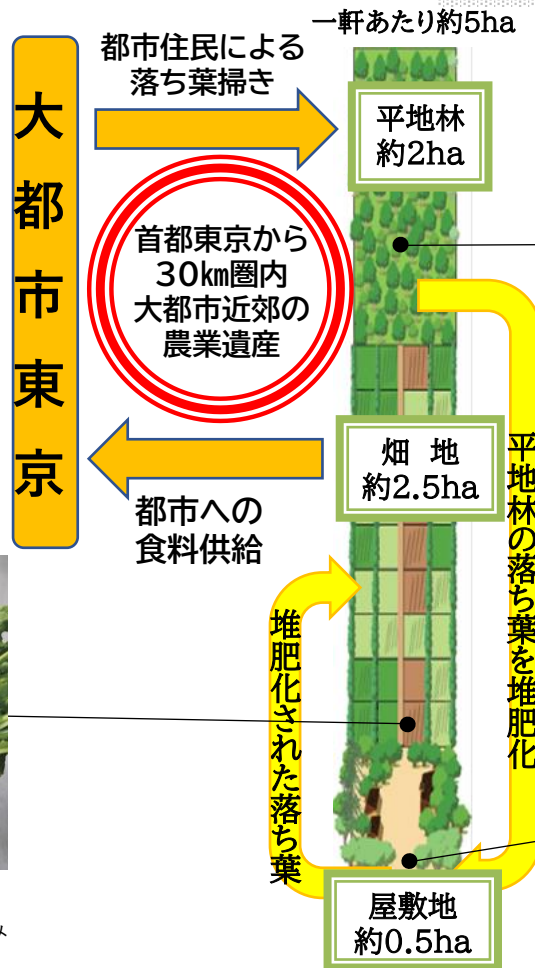
キンラン（絶滅危惧二類）

落ち葉掃きなどの平地林の管理が、
希少な動植物が暮らす環境を生み
出している。



落ち葉堆肥により栽培される多種多様な農産物

落ち葉掃きなどの平地林の管理が、希少な動植物が暮らす環境を生み
出している。



市民参加の落ち葉掃き

冬になると地域内各所で落ち葉堆肥の原料となる
落ち葉掃きが行われる。



平地林から集められた落ち葉は土壌微生物などの
力により1～2年かけて堆肥となる。

実践農業者補助件数 46件

農業遺産の周知

様々な世代に向けて本地域の農法を知っていただくため、親子や小学生を対象とした農業塾を開催。また、農法の魅力を発信する人材を育成するため農業遺産コンシルジュ養成講座を実施。



農業遺産コンシユルジュ
養成講座

2017年からの視察者数 35団体543人

中国「宣化のぶどう栽培の都市農業遺産」との
『都市型農業遺産「宣化・武蔵野」共同推進宣言』

都市近郊の農業遺産の課題や解決策をお互いに共有し、学術的、農業的及び文化的交流をはじめ多角的な連携を密接に図ることで都市型の農業遺産の重要性を世界に向けて発信し、共に保全活動を推進するために2019年に共同宣言を行った。

